

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	漢方・薬膳学		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3 年		学期及び曜時間	前期	教室名	講義室
担 当 教 員	稲垣 順也	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
漢方薬やその構成生薬の効能について学習する。漢方薬を使った診療記録の歴史的な集積が東洋医学理論の基盤の一つとなっているため、この授業での学びにより、『東洋医学概論』や『東洋医学臨床論』の内容に対する理解を深め、東洋医学的な鍼灸の臨床力を高めることを目指す。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験の得点：100% (60% を超えれば合格)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布プリント						
《授業外における学習方法》						
漢方薬の名前を新しく知った時は、それがどの「証」に適したものであるかを考えたり調べてみると良い。						
《履修に当たっての留意点》						
「弁証」や「四診(特に問診)」の力を高めるための題材として、漢方薬に興味を持っていたら幸いです。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「漢方」という言葉が意味するところを理解し、説明できるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習	
		各コマにおける授業予定	「漢方」という言葉の由来 生薬の「基原」「性味」「帰経」「主治」について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	裏実証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習	
		各コマにおける授業予定	裏実証に用いる薬とその効能			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	気滞証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習	
		各コマにおける授業予定	気滞証に用いる薬とその効能			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	気逆証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習	
		各コマにおける授業予定	気逆証に用いる薬とその効能			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	気虚証や気陥証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習	
		各コマにおける授業予定	気虚証と気陥証に用いる薬とその効能			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	湿証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	湿証に用いる薬とその効能		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	飲証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	飲証に用いる薬とその効能		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	痰証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	痰証に用いる薬とその効能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血瘀証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	血瘀証に用いる薬とその効能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	血虚証や精虚証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	血虚証と精虚証に用いる薬とその効能		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	陽盛(実熱)証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	陽盛(実熱)証に用いる薬とその効能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	陽虚(虚寒)証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	陽虚(虚寒)証に用いる薬とその効能		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	陰盛(実寒)証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	陰盛(実寒)証に用いる薬とその効能		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	陰虚(虚熱)証と津液不足証の時にどのような症状が現れるかを以前よりも詳しく言えるようになる。	配布プリント	東洋医学概論の復習
		各コマにおける授業予定	陰虚(虚熱)証と津液不足証に用いる薬とその効能		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	期末課題にて60%以上の正答率を達成する。	配布プリント	これまでの復習
		各コマにおける授業予定	期末課題への取り組み		